

「国際キャンパス奈良」形成のための「国際戦略センター」設置

奈良のアドバンテージを最大化するユニークな学びと研究の実現

法人統合を契機に、両大学の教育研究資源の連携を進め、さらに、「奈良カレッジズ」として学術・文化施設等との連携を進めることで、学生が奈良で学ぶアドバンテージを最大化する。国際交流事業は、大学単位でなく、法人本部に置き、国際交流と地域活性を循環させる「国際キャンパス奈良」を形成する。

【コロナ前】
大学の個別の取組



【令和4年度】
法人統合 → 新たな教育研究ビジョン形成
○教育研究資源の連携・共有
○「奈良カレッジズ」の確立



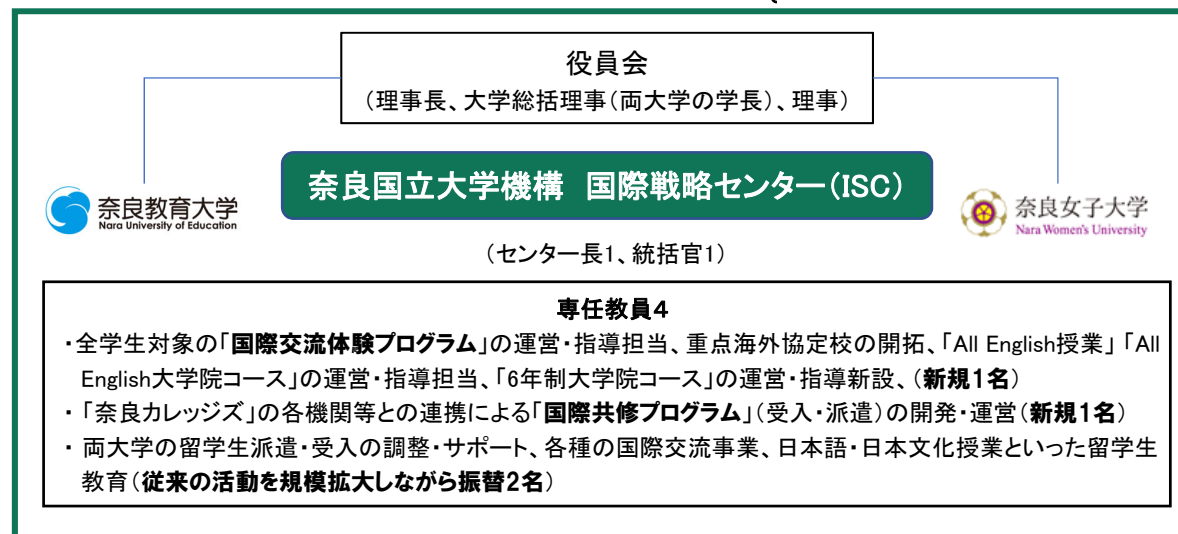
【令和5年度から】
法人としての国際戦略の本格稼働

国際戦略の立案・実施を法人の重要課題とし、法人本部にセンターを設置

奈良女子大学 国際交流センター
(センター長1) 専任教員1
派遣 130人/年
受入 240人/年
海外協定校 57校



奈良教育大学 国際交流留学センター
(センター長1) 専任教員1
派遣 10人/年
受入 50人/年
海外協定校 12校



- KPI
- ① 魅力ある国際交流事業の実施による留学生の派遣・受入の増加。
(目標)・奈良女子大 派遣 350人(うちオンライン200人)/受入 350人(うちオンライン100人)
・奈良教育大 派遣 100人(うちオンライン 50人)/受入 100人
 - ② 両大学の80%以上の学生が「国際交流体験プログラム」において指定のポイント(卒業までに学部生は4ポイント、大学院生は2ポイント)以上を獲得。
 - ③ 「国際交流体験プログラム」の第三者評価(地元企業・自治体・教育委員会)において国際理解・異文化理解の事業の有効性を評価。
 - ④ 学生の卒業1年後の就職先(地元企業・自治体・教育委員会)の上司アンケートにより、外国語処理能力、国際理解・異文化理解の知識・技能の活用状況を評価。